



平成 21 年 3 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社アーティストハウスホールディングス  
代表者名 代表取締役 平 原 宏 一  
(コード番号 3716 東証 マザーズ )  
問合せ先 取締役 経営企画担当 鈴 木 孝 之  
(TEL. 03-6673-7080 )

### 株式会社ミュージックランドの株式売却に伴う当社業績への影響と見通しに関するお知らせ

当社が平成 21 年 2 月 27 日に開示させていただき、平成 21 年 3 月 17 日に売却を完了した株式会社ミュージックランドの株式売却に伴う今後の当社の業績に関して、同社が当社グループにおいて主軸企業であったことから、改めて下記の通りにお知らせすると共に今後の見通しについてもお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 当社の業績における株式会社ミュージックランドの位置づけ

平成 20 年 5 月期

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失
平成 20 年 5 月期	4,286 百万円	△666 百万円	△1,643 百万円	△2,235 百万円

当社グループ企業における売上構成比（カッコ内の数値は売上高に対する割合）

- 株式会社アーティストハウスホールディングス（0.4%）※
- 株式会社ミュージックランド（77.1%）
- 株式会社ジーワン（19.2%）
- 株式会社アーティストハウスエンターテイメント（1.6%）※
- 株式会社アーティストハウスインベストメント（0%）※
- 株式会社アーティストハウスパブリッシャーズ（-0.6%）
- 株式会社アーティストハウスフィルム（0.8%）
- 株式会社翔年社（0%）
- 株式会社 BBMC（0.2%）
- 株式会社 FOU（1.2%）
- 株式会社ツートップ（0%）

平成 20 年 5 月期第 2 四半期

	売上高	営業損失	経常損失	四半期純損失
平成 20 年 5 月期	2,295 百万円	△355 百万円	△1,312 百万円	△1,361 百万円

当社グループ企業における売上構成比（カッコ内の数値は売上高に対する割合）

- 株式会社アーティストハウスホールディングス（0.4%）※
- 株式会社ミュージックランド（74.2%）
- 株式会社ジーワン（20.8%）
- 株式会社アーティストハウスエンターテイメント（1.9%）※
- 株式会社アーティストハウスインベストメント（0%）※
- 株式会社アーティストハウスパブリッシャーズ（-0.8%）
- 株式会社アーティストハウスフィルム（0.6%）
- 株式会社翔年社（0%）
- 株式会社 BBMC（1.1%）
- 株式会社 FOU（1.8%）
- 株式会社ツートップ（0.1%）

平成 21 年 5 月期第 2 四半期

	売上高	営業損失	経常損失	四半期純損失
平成 21 年 5 月期	1,636 百万円	△359 百万円	△345 百万円	△82 百万円

当社グループ企業における売上構成比（カッコ内の数値は売上高に対する割合）

- 株式会社アーティストハウスホールディングス（0.3%）※
- 株式会社ミュージックランド（77.6%）
- 株式会社ジーワン（21.4%）
- 株式会社アーティストハウスエンターテイメント（0.3%）※
- 株式会社アーティストハウスインベストメント（0%）※
- 株式会社アーティストハウスパブリッシャーズ（-0.2%）
- 株式会社アーティストハウスフィルム（0.5%）
- 株式会社翔年社（0%）
- 株式会社 BBMC（0.1%）
- 株式会社 FOU（0%）
- 株式会社ツートップ（0%）

（注） ※は現時点の当社グループ会社です。平成 21 年 5 月期第 2 四半期の売上げに対して現存している当社グループの売上高比率は 0.6%です。

当社は上記のようにグループ会社の再編成を前々期より進めて参りました結果、現在のグループ企業は株式会社アーティストハウスエンターテイメント、株式会社アーティストハウスインベストメントの 2 社となっております。売却したグループ会社は前々期に決定した出版・コンテンツ事業からの撤退の方針に基づき、順次整理統合、売却を推し進めた結果であります。

今回当社が保有する全株式を売却した株式会社ミュージックランドは上記平成20年5月期通期連結決算、平成20年5月期第2四半期及び平成21年5月期第2四半期の数値からも、当社が従来より開示させていただいていた通り、当社グループの主軸企業であったことは明らかであります。当社といたしましては有利子負債の全額返済という財務基盤強化を行った上で中期事業計画に基づいて当社グループの再構築を図らなければならないという判断の基にこの主軸企業であった株式会社ミュージックランドの株式（発行済株式の99.7%相当数）を売却し、有利子負債の全額返済を行いました。しかしながらこれにより当社グループの平成21年5月期連結決算において当期は前期対比で売上高においては約80%という大きな減収が予想されます。

## 2. 当社の今後の見通し

当社は昨年策定した中期事業計画に基づき、新生アーティストハウスグループとして事業展開を開始しており、特に株式会社アーティストハウスエンターテイメントにおいては飲食関連事業、流通関連事業につき、開始しております。今後の見通しに関する数値予測を含めた事業計画については数値が確定次第すみやかにご報告致します。

以 上